

# 料理界のミッド・ジャガーはいかに三つ星を撃ち落としか

text by Shinji Ishii  
文いししんじ

『キッチン』の悪魔「三つ星を越えた男」という自伝をおもしろく読んでいます。お好み焼き屋に行くのにも、居酒屋に行くのにもこの一冊を携え、席について没入してページをめくる。料理が運ばれてくれば、目と同じように胃袋を開いてがつがつ平らげる。

著者はイギリスのフランス料理シェフ、マルコ・ピエール・ホワイト。イギリス人で初めて、また、史上最年少でミシュランの三つ星を獲得し、そして人気の絶頂で星を返上、キッチンから引退した伝説の料理人だ。

1961年、イギリス北部リーズ生まれ。マルコ、というファーストネームはイタリア人だった母に由来。父親は地元で働く、むかし気質のまじめな料理人だった。

高校を中退後、父の縁をたどってホテルのレストランで調理師見習いをはじめた。

「の悪魔」でのマルコもほとんど眠っていない。

イギリス人で初めてミシュランの三つ星をマルコが獲得した1994年、僕は、はじめての本『アムステルダム』をきっかけに会社を辞め、夜は保健所に無届けの闇バーでバーテンをつとめ、日中はなんでもライターとして日本国内外を飛びまわっては猛然と、コラム、評論、対談、短編、旅行記、伝記などを書いた。パブル景気は収束し、けれども全世界的に甘ちゃんな、浮かれた空気は残っていたように思う。

マルコが三つ星を返上し、シェフを引退するのが1999年。世界はもう暗かった。眠る間を惜しんで起きているうち、いつのまにか、この世全体がうつすらと眠りに落ちていた。マルコが引退を決意したのは、ひとの賞賛にあやつられることより、みずからの生を取りもどすことを選んだからだ。

この頃、それに近い決断をしたひとは、世界じゅうに少なくない数いたかもしれない。僕はからだを壊し、「なんでもライター」の看板をしまつて、売れない小説を地味にこつこつ書きつづける生活には

それから転々と9年間、名店で修業を重ね、24歳のとき元ハンバーガースタンドの店舗で初めてのレストラン「ハーヴェイズ」をオープン。この店こそ伝説のはじまりであり、みずからしつらえた栄光のステージでもあった。

自伝の前半で、修行したさまざまなレストランの厨房の風景が生々しく語られる。名だたる店ばかりだから、そこを統べるシェフのキャラクターも色とりどりだ。感謝、敬愛、ちよつとしたからかいの念を混ぜて、マルコは大先輩たちの姿を鮮やかに描写する。

わらしべ長者のように店から店へと渡り歩き、そこで食材、調理法、なにより「ひと」との出会いを重ねていく。そうして「ハーヴェイズ」のオープンに当たり、自分のなかに蓄積され、熟成されたテクニック、センス、縁のすべてを、マルコは店に注ぎこ

いった。そして、その暮らしをいまもつづけている。

この本には、20世紀末の、全世界的な盛り上がり、そしてその終焉が、この上ない誠実さと、すりつぶしたニンニクに似た皮肉、さらに、あらゆる意味で舌からうまれた人間の雄弁を駆使してつづられている。あの頃に僕たちはなにを得、なにを手放したのか。もうなにもおぼえていない、と思っていた「時代の実感」が、街の喧噪や匂いととも、腹の底からよみがえる。

爽快な成功ストーリーの影に、しずかに流れる哀しみがある。おさない日、頭痛を訴える大好きな母が救急車で運ばれ、そうして二度と生きて帰ってこなかった。実直

む。史上最年少での三つ星獲得を、まるであらかじめ知っていたかのように。マルコがレストランをひらいた1980年代半ば、イギリスはサッチャー政権、日本ではパブル景気まっさかり。僕は東京の新入社員で、午後5時から午前3時まで渋谷や新宿で「調査活動」に励み、それから会社に帰って朝10時までレポートを書き、日中は、先輩の営業マンに連れられて大企業の人事部や広報部をまわり、「いまの若いやつらはこんな感じですよ」と、しらふのまま自分の胸を指さし、唇から血がにじむくらい喋りつづけた。

そして夕方からはまた外で「調査活動」。いつ寝ていたかふしぎだ。当時は、寝てるなんて死んでると同じだ、起きていないと生きてなんていない、なんてうそぶいていた。眠っているあいだに世界の回転を見逃すのが悔しかった。そういえば「キッチン

な料理人だった父親とは関係が途絶え、ふるさとの街に戻っても、姿が見つからないようこそソコソコ歩きまわるようになってしまった。もつとも近くにいるはずの人間ふたりと、どうしようもなく巨大な透明な手で、骨と肉のように引きはがされて育った。大切なものを徹底的に失ったひとのことは、荒っぽくみえて、ひたひたと胸の底にしみ渡る。ちよつどこの時季の、ざく切りにした鱧とまったけの土瓶蒸しのように。



英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)

面積: 24.3万km<sup>2</sup> (日本の約3分の2)  
人口: 約6,680万人 (2019年)  
都: ロンドン (人口約896万人、2019年)  
言語: 英語(ウェールズ語、ゲール語など使用地域あり)  
宗教: 英国国教会等



### Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツェ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を教え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『遠い足の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。